

2017 年度決算説明 ネットカンファレンス質疑応答要旨

日時	2018 年 5 月 15 日 16:30~17:30
説明者	コーポレートコミュニケーション部 副部長 IR グループリーダー 吉田 修
説明資料	2017 年度決算の概要 及び 2018 年度業績予想の概要

Q&A

■モビリティセグメント

Q1. モビリティセグメントの各事業の動向について説明してほしい。

A1. PP コンパウンドについては、17 年度は北米の自動車生産が落ち込んだものの、グローバルではアジアを中心に需要は拡大しました。18 年度も引き続きアジア、欧州等を中心に販売が拡大すると見込んでいます。ICT 用途では、アペルについては 17 年 4Q にスマートフォンの生産調整があったものの、当社の販売は計画通り進捗しました。18 年度も引き続き堅調に推移するものと見込んでいます。

Q2. モビリティセグメントは主要製品の稼働率が高水準になっていると認識しているが、17 年度は 16 年度比で営業利益の数量差が大きくプラスとなっている。18 年度もこの傾向は続くのか。

A2. PP コンパウンドについては 17 年度に設備を増設しており、18 年度はこの効果が寄与するものと見込んでいます。また機能性コンパウンドや機能性ポリマーはまだ設備余力があり、18 年度も増販を計画しています。エラストマーについては稼働率がフルになっているため、販売構成の改善による利益率の向上を推進するとともに、設備新增設につき、早期の意思決定を図って参ります。

Q3. モビリティセグメントの 17 年度から 18 年度の営業利益増加の内、アーク社の株式取得の影響はどの程度か。また主な増益要因は何か。

A3. アーク社株式取得の影響については、アーク社の営業利益からののれん償却費等を差し引いた金額を織り込んでいますが、18 年度の増益は主に既存事業の成長によるものです。また、販売数量の拡大が主な増益要因となっています。

Q4. モビリティセグメントの 17 年 4Q（1-3 月）の営業利益が前回発表の予想値から下振れした理由は何か。また 18 年度上期から下期にかけて増益となる理由は何か。

A4. 17 年 4Q の販売は堅調に推移したものの、原料価格上昇と価格改定のタイムラグの影響を受けました。18 年度上期と下期の差は、エラストマーの定修が上期に集中していることが主な要因です。

Q5. モビリティセグメントの ROS が 17 年 4Q（1-3 月）で低下している要因は何か。

A5. 17 年 4Q ではアーク社の株式取得に伴う費用が発生しているほか、原料価格が上昇したことが主な要因です。但しアーク社株式取得費用は一過性であり、また価格改定も推進しているため、18 年度にかけて利益率は戻ってくるものと見込んでいます。

■ヘルスケアセグメント

Q6. ヘルスケアセグメントの 17 年 4Q（1-3 月）の営業利益が前回発表の予想値に対して未達となった理由は何か。また 18 年度の増益要因及び各事業の動向について説明してほしい。

A6. 17 年度 4Q の計画未達については、歯科材料の販売低迷が主な要因です。18 年度にかけては、ビジョンケアは引き続きメガネレンズモノマーの販売が堅調に推移すると見込んでいます。不織布については、新設備立上げによる増販、及び 17 年度に発生した原料上昇と価格改定のタイムラグに伴う交易条件悪化の緩和を見込む一方、新設備の固定費負担増加を見込んでいます。歯科材料については、のれん等償却費の負担が減少しますが、販売面についてはやや慎重に見込んでいます。

Q7. ヘルスケアセグメントの営業利益が 18 年度上期から下期にかけて増益となる理由は何か。

A7. 不織布の新設備の稼働による販売拡大が主な要因です。

■フード&パッケージングセグメント

Q8. フード&パッケージングセグメントの営業利益は、17 年度 4Q（1-3 月）は前回発表の予想値から減益となっている一方、18 年度は 17 年度対比で 31 億円と大きく伸ばす計画になっているが、主な要因は何か。

A8. 17 年 4Q は原料価格上昇と価格改定のタイムラグにより交易条件が悪化しました。18 年度については価格改定による交易条件の改善、及び各製品の拡販により増益を見込んでいます。

Q9. フード&パッケージングセグメントの営業利益について、18 年度上期から下期にかけて増益となる理由は何か。

A9. 農薬の季節差が主な要因です。

■基盤素材セグメント

Q10. 基盤素材セグメントの営業利益について、17 年度 3Q（10-12 月）から 4Q（1-3 月）、及び 17 年度下期から 18 年度上期にかけての動きについて説明してほしい。

A10. 17 年度 3Q から 4Q にかけては、フェノール市況が上昇したほか、石化原料及びポリオレフィン稼働率が高水準で推移しました。17 年度下期から 18 年度上期にかけては、大阪工場でのクラッカーの大規模定修、及び他製品の定修実施の影響による営業利益の減少を見込んでいます。

Q11. 基盤素材セグメントの営業利益について 18 年度上期から下期にかけて 50 億円の増益となっているが、定修の影響はどの程度か。また石化製品の市況はどのように見込んでいるか。

A11. 通常定修の影響は約 30 億円程度ですが、18 年度は大定修のため影響が大きくなるのに加え、フェノール等も上期に定修を計画しています。石化製品市況については慎重に見ており、後半にかけて軟化を見込んでいます。

Q12. フェノールの需給及び市況動向について説明してほしい。

A12. 17 年度前半は安価な米国品の流入により中国市況が低迷していましたが、ハリケーンの影響の他、Shell の米国プラントの停止及び中国向け輸出へのアンチダンピング税適用の可能性等により、後半にかけて市況は上昇しました。18 年度については、足元は定修シーズンに入っているほか、新增設プラントの立ち上がりが遅れています。今後新增設プラントは本格稼働が見込まれますが、一方で需要はポリカーボネートの好調を背景に引き続き堅調に推移するほか、中国においてフェノール法のカプロラクタムが立ち上ることから、需給及び市況は正常化していくと見込んでいます。

Q13. TDI の需給及び市況動向について説明してほしい。

A13. 17 年度は新增設プラントの稼働遅れや、北米の寒波の影響によるフォースマジュール等により、市況は高水準で推移しました。18 年度は新增設プラントの本格稼働により、需給は緩和していくと想定され、これに伴い市況も軟化していくと見込んでいます。

■全社

Q14. 17 年度 4Q（1-3 月）で非支配株主に帰属する当期純利益が減少している理由は何か。

A14. 17 年度 4Q に計上した歯科材料の減損損失が主な要因です。

Q15. 足元の価格改定の状況はどうなっているか。

A15. 原料価格が上昇を続けていることもあり、まだ価格改定は完了してはませんが、需要は引き続き堅調であり、また物流・用役コストも上昇しているため、今後も引き続き改定に取り組んで参ります。

以上